

① 骨粗鬆性椎体骨折に対する経皮的椎体形成術(BKP)

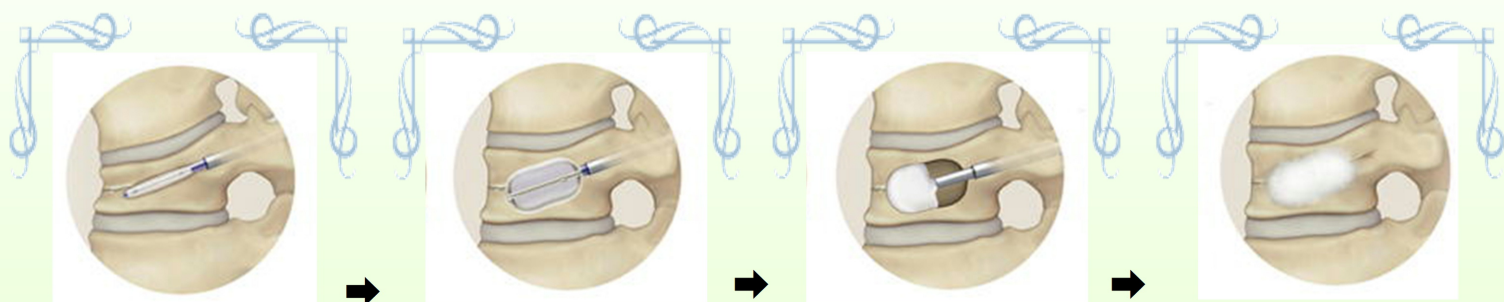
BKPとはBalloon kyphoplastyの略です。圧迫骨折によって潰れかかった椎体の中でバルン(風船)を膨らまして椎体の形状を矯正して、さらにセメントを注入して骨折部を固めてしまう手術です。傷口も背中中の左右に5mm程度が2か所であり術直後から痛みが激減します。骨折の状況によっては、セメントが椎体外に漏れてしまう可能性があるためレントゲンの他、CTやMRIによる精査の上で適応があるかどうかを判断します。

圧迫骨折が生じると強い腰や背中中の痛みが起こり長期間の安静を余儀なくされますがBKPは合併症が極めて少ない手術法です

経過が良ければ術後数日で退院可能となります

手術の適応は保存的治療(投薬とコルセットによる治療)で改善しない圧迫骨折

2011年より保険適応となり、全身麻酔で30分程度、ほとんど出血なしの低侵襲手術



①背中から針を刺入し、骨折した椎体への細い経路を作ります。

②そこへ小さな風船のついた器具を入れます。椎体の中に入れた風船を徐々に膨らませ、つぶれた骨を持ち上げます。

③風船を抜くと、椎体内に空間ができます。その空間を満たすように、骨セメントを充填します。

④手術は30分程度で終わり、骨セメントは手術中に固まります。



傷口はとても小さく背中中の左右に5mm程度が2か所のみです

BKPの手術は認定資格が必要で、試験に合格した医師のみが施行できます。当センターでは本手術が施行可能ですので、圧迫骨折による腰や背中中の痛みにお悩みの患者さんはお気軽にご相談ください。